

JA全農えひめ情報

みくろんど

■特集

第36回JA愛媛県大会

夢と活力ある愛媛の「農業」と「暮らし」づくり

12

2015・December



愛媛の酒蔵めぐり

6

野武士



▶裏山を掘った横井戸の入口。約20m奥まで続く



▶松野町の中心部、人が往来する三叉路に立つ正木正光酒造場

有限会社正木正光酒造場

代表銘柄 野武士
 創業 1905年(明治38年)
 代表取締役 正木 啓介
 住所 北宇和郡松野町松丸178
 TEL 0895-42-1128

▲(右)純米吟醸生原酒「野武士」。独特の風味と、日本酒本来の味わいと香りが格別のしぼりたて。野武士の顔が横を向くラベル・イラストも実にユニーク。(左)「しずく媛」は純米吟醸酒。濃醇旨口タイプでまろやかな口当たりが特徴

江戸時代に土佐と伊予を結んだ旧松丸街道沿いの風景に溶け込む「正木正光酒造場」。創業者の正木正光氏は「酒は大部分が水、良い酒造りには良い仕込み水が必要」と、敷地内に横井戸を掘りました。鉄分が少なく良質の、四万十川最大級の支流・広見川の湧水です。正光氏は闘牛を所有し、その名は「野武士」。軽量ながらも負け知らずで、横綱を張る大層人気の牛でした。戦後、2代目はその牛にあやかり、銘柄を「野武士」とします。荒々しくも勢いのある「野武士」をイメージさせる辛口酒。目指すのは、ただ辛口一辺倒でなく、濃醇さも兼ね備えたまろやかな酒を、「小規模だから失敗はできない」と、一本一本丹精込めた手づくりで。

地元・松野は県内で一番小さな町。異彩を放つその名称は、今や町の活性化を担うゆるキャラ「のぶしくん」となって活躍中です。「町ぐるみで広見川を清掃したりと、酒は町に育てられ、町と共に生きてきた」と、現代代表の正木啓介さん。行政と一体化した町おこしに加えて、全国酒販生活協同組合副会長、愛媛県小売酒販組合連合会会長職を兼務され「百薬の長となる飲み方を推進していきたい」と、広い視野で、節度ある消費拡大を牽引していく役割も担っています。

めぐり〜ど

December 2015

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



薪ストーブであったかい部屋の中。みんなで作ったとんがり帽子、クリスマスツリーやリース、飾りつけも出来上がり、あとは料理を待つばかり。あつあつシチューは旬のカブや里芋が入っているのかな？ プレゼントを背負った園長先生サンタさんを見つけてしまった園児に「しーっ」と口止め、守れるかな？ もうすぐ楽しいクリスマス会が始まります。

●表紙：幼稚園のクリスマス会
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.180

愛媛の酒蔵めぐり⑥〜(有)正木正光酒造場

2

〈特集〉第36回JA愛媛県大会

夢と活力ある愛媛の「農業」と「暮らし」づくり

〜農業者の所得増大と地域の活性化に向けた改革への挑戦〜

8

THE・ねっとわーく

9

統計BOX

10

ふるさと ESSAY VOL.248

愛媛ってあったかい！

平繁 かなえさん

12

TOPIC NEWS

15

なんでもBOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉春菊

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

特集・第36回JA愛媛県大会

夢と活力ある愛媛の「農業」と「暮らし」づくり

～農業者の所得増大と地域の活性化に向けた改革への挑戦～

JAグループ愛媛は、12月14日、松山市のJA愛媛で、「第36回JA愛媛県大会」を開催しました。

大会には、JAグループ愛媛の生産者組織代表者、JA役員など約250人が出席。「活力ある愛媛の「農業」と「暮らし」づくり～農業者の所得増大と地域の活性化に向けた改革への挑戦～」を基本方針として、JAグループの今後3年間の取組みを決議しました。

また、「TPP対策運動の継続・強化に関する特別決議」を満場一致で採択し、国会批准に向け食料・農業・農村を守るための運動に取り組むことを確認しました。

今回は、大会決議内容を抜粋して紹介します。

基本的方向性について

■JAグループのめざす姿

JAグループ愛媛では、前回の第35回JA大会において、10年後めざす姿を掲げて取り組んできました。今般の農協改革等による情勢変化を踏まえても、わたしたちのめざす姿については、その方向性が変わるものではありません。したがって引き続き以下のとおりめざす姿の実現に向けて取り組んでいくこととします。

- 消費者の信頼にこたえ、安全で安心な県産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を支え、農業所得の向上を支える姿
- 総合事業を通じて地域のライフレインの一翼を担い、協同の力で豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献している姿
- 次世代とともに、「食と農を基軸」として地域に根ざした協同組合」として、存立している姿

■JAグループ愛媛の自己改革

(3か年計画最重要実施)

人口減少・高齢化が進み、県内に

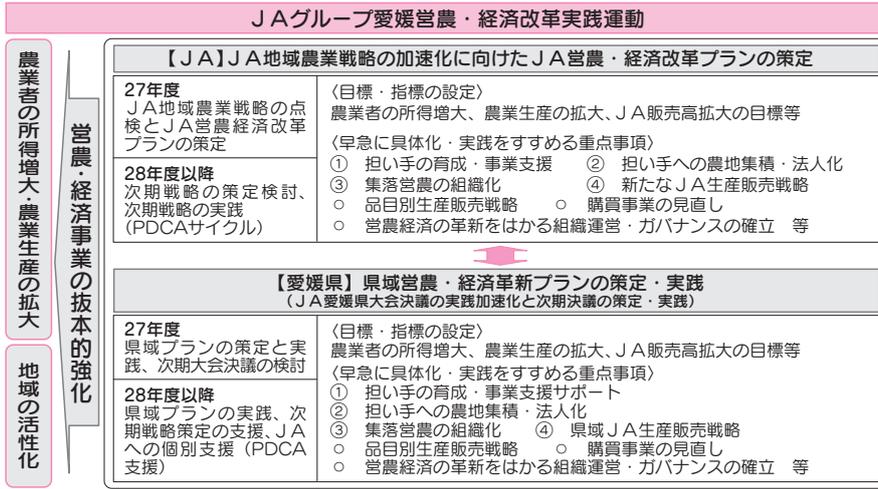
においても地域間格差が広がる中で、持続可能な愛媛農業の実現に向けた「農業者の所得増大」「農産生産の拡大」への挑戦として以下の項目をJAグループ愛媛の自己改革最重要実施分野と位置付け、全てのJAで取り組みを進めます。また、組合員の営農とくらしの課題に向き合う事業・組織活動を通じて、生活インフラ機能の発揮、地域コミュニティの活性化等による「地域の活性化」に取り組めます。

JAはそれぞれの実施分野について、地域実態に応じた取り組み内容を中期経営計画・単年度事業計画等に落とし込むとともに、自己改革工程表を策定し、実践管理を行います。

また、それらの取り組みに必要な経営課題については、JAの実態に応じて対応していきます。特に組織・事業の見直しによる経営資源の再配分、組合員の「アクティブ・メンバーシップ」への取り組み、農協運動者としての役員づくりを重点的に進めます。

これらのJAグループ愛媛の取り組みについては、積極的な広報活動を通じて組合員・地域住民に幅広くご理解いただけるよう努めていきます。

図2 「JAグループ愛媛営農・経済改革実践運動」の全体イメージ



- ① 定年帰農)の育成・確保
- ② 集落営農組織・法人の育成・確保と農地利用集積の取り組み強化
- ③ 果樹・野菜地帯における生産基盤の強化
- ④ JA本体またはJA出資型農業法人による農業経営を通じた地域農業への支援
- ⑤ 多様な担い手の支援による地域農業

- ⑥ 業振興
- ⑦ 担い手に対応した総合的な農業経営管理支援の強化
- ⑧ 営農・経済部門の体制強化
- ⑨ 営農・経済部門への経営資源のシフト
- ⑩ 専門営農指導員の充実・育成
- ⑪ 営農指導員の育成に向けた人事ローテーションの確立

図3 営農・経済事業の体制強化 (イメージ)

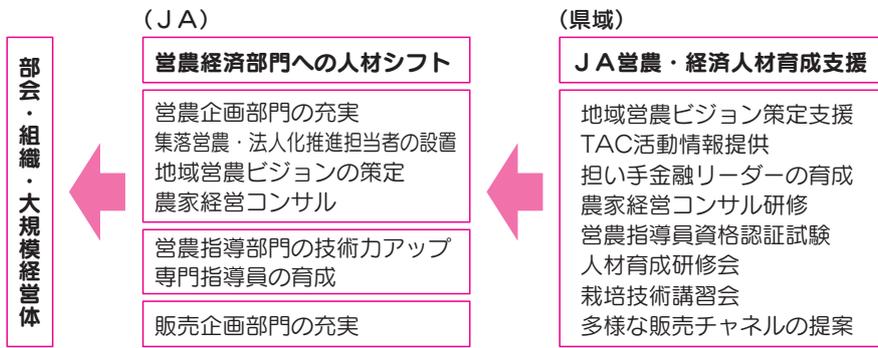
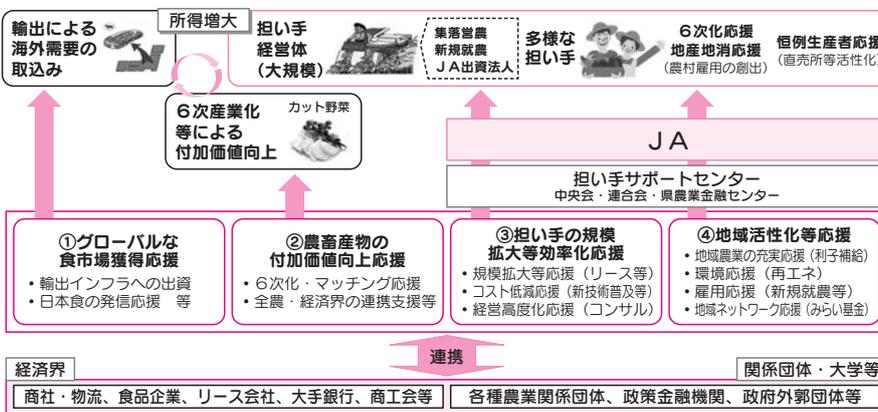


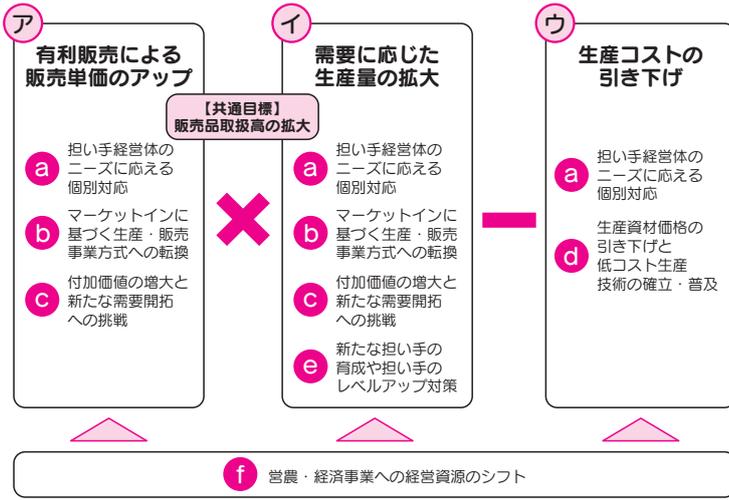
図4 農業所得増大・地域活性化応援プログラムの取り組み (イメージ)



- ① 愛媛県担い手サポートセンターの設置
- ② 「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」を活用し、JA営農・経済改革実践運動の展開による担い手育成やJA総合事業による事業支援の強化をサポートするため、連合
- ③ 担い手サポートセンターの設置によるJAの支援の強化
- ④ 担い手サポートセンターの設置

- ⑤ 会・中央会等で構成する愛媛県担い手サポートセンターを設置します。特に、担い手へ出向く体制の構築・支援、農業経営管理支援、行政等関係機関と連携した新規就農支援、集落営農の組織化・法人化などの取り組みについてJA個別支援を強化するとともに、一体的なサポート体制の構築について検討を進めます。
- ⑥ 「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」の活用
 - 農業者の所得増大と持続可能な農業経営の実現のため、輸出の取り組み、6次産業化、高付加価値化、担い手の初期投資を軽減するための支援、担い手への経営サポート、新規就農者を育成・確保する取り組みへの支援など、JA営農・経済改革の取り組みを総合的に支えるために創設した「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」および「JAバンクえひめ版の農業所得増大・地域活性化応援プログラム」をJAグループ愛媛として積極的に活用し、JA営農・経済改革実践運動を着実に実践します。
- ⑦ 地域農業の確立に向けた農政運動体制の強化

図5 「農業者の所得増大」の考え方



営農・経済事業への経営資源のシフト

第2期では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の実現に向けて、JAグループの総合力を活かし、市場販売の充実に加え契約取引販売(買取・直販・マッチング販売)の拡大等による販売事業改革、マーケットイン(実需者ニーズ)に基づく産地づくり、水田フル活用による手取り向上、6次産業化等による付加価値の増大、生産資材のトータルコスト削減の実践を加速化するとともに、新規就農者や大規模経営体の育成・事業支援サポートなどTAC(出向く)活動の高度化・事業間連携による経営支援等を充実します。

また、販売事業と連動した県産農畜産物の消費拡大活動を展開するとともに、輸出事業については、JAグループ間での情報等を共有化し、行政等関係機関と連携して拡大に取り組みます。

(1) マーケットインに基づく生産振興の取り組み
マーケットイン(実需者ニーズ)を起点に、生産・販売・購買・信用事業が連携した提案活動、新たな産地づくりに向けた推進活動を強化し

て、需要に応じた農畜産物の生産振興に取り組みとともに、品質・生産性向上による農業者の所得増大を図ります。

(2) 契約取引販売の拡大等による販売事業改革
① 米穀
県内米穀卸と連携し実需者ニーズに基づく作型・品質・品種等の生産提案を行い、需要に対応した買取販売を継続し早期精算に取組むとともに、農家の利便性向上を図るため庭先集荷や土日集荷の実施、大口担い手に対するランク別奨励やフレコン集荷に取組み集荷コストの低減を図ります。

また、実需者から提案のある特別栽培契約や酒米収穫前契約などの多様な契約方式に取り組み、農業者の所得増大を図ります。

② 園芸
青果物卸売会社と連携(重点化・パートナー化)して、愛媛チームとしてのリレー販売や予約相対・契約販売・企画販売に積極的に取組むとともに、JA共同利用施設の集約再編やJA域を超えた広域利用・同施設の設定等による選果コストの低減を図り、販売価格の安定化と持続可能な農業経営の実現に取り組みます。

また、従来の量販店対応に加え、変化する消費者や加工・業務実需者のニーズを的確に把握し、産地に生産提案を行い、JA・生産者との契約取引を積極的に進め、生産・流通・加工・販売に係わるバリエーションの構築に取り組みます。

③ 畜産・酪農
生産者と販売先を結び付けるマッチング販売を進め、県内は地産地消、県外は大手量販店指定産地取引や外食企業との連携強化の取り組みを進めるとともに、地域特性・独自性を活かした愛媛県産畜産物および乳製品の販売力強化に取り組みます。

④ 県産農畜産物の消費拡大
生産者・JA・連合会が一体となり、えひめ愛フード推進機構との連携を強化し、「愛のオレンジロード」「えひめの食」企画等を通じ、販売事業と連動し県産農畜産物に対する消費者へのPR・理解促進を図っていきます。

(3) JA販売事業戦略の強化
① JA農産物直売所の取り組み強化
② JA直接販売・契約販売等の取り組み強化
(4) 付加価値の増大の取り組み
① 6次産業化・農工商連携、輸出拡大の取り組み

② 地域ブランドの強化に向けた知的財産等の戦略的活用

③ 食の安全確保対策の取り組み

(5) 生産資材事業におけるトータルコスト低減の取り組み

生産資材コストの低減に向けた新資材・新技術の普及拡大や環境保全対応の強化を図るとともに、JA総合物流体制の拡充を進め、物流の合理化と利便性の向上に取り組みます。

特に、平成28年度からの3か年事業として「農家手取り最大化」を掲げ、県内にモデルJAを設け、生産資材コストの低減を進めていきます。

① 物財費の削減

土壌診断に基づく無駄のない適正施肥の提案、低成分・低コスト肥料の普及拡大や系統独自大型規格・ジェネリック農薬の普及拡大、ならびに省力化・コスト低減に向けた段階ボールの開発に取り組みます。また、銘柄集約や予約購買によるメリット創出、広域物流体制の再構築、奨励措置や手数料設定の見直し、ホームセンター調査を踏まえた弾力的な価格設定に取り組みます。

また、価格メリットのあるJAグループ独自型式・県内重点型式農機の普及拡大に取り組むとともに、信用・経済事業が連携した「農機具等

リース応援事業」による初期投資の軽減とリース料の一部助成による支援を行います。

② 労働費の低減・生産性の向上

一発施肥や水稲育苗箱全量施肥・流し込み施肥など省力施肥技術の普及・拡大に取り組むとともに、生分解性マルチによる労働費の低減と環境負荷の軽減を進めます。

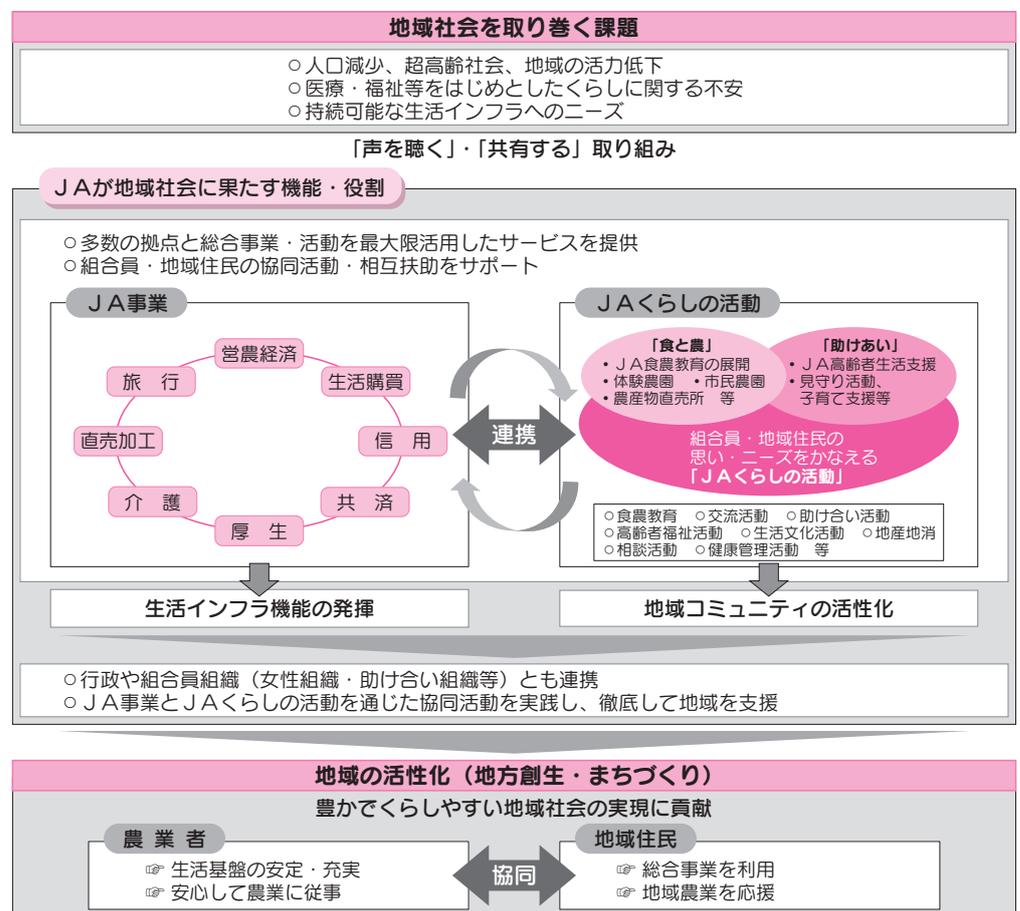
一方では、規模拡大に取り組む担い手への支援や高齢化対策・耕作放棄地の解消対策として農作業支援態勢の構築・確立を進めるとともに、行政等関係機関と連携し水稲多収穫品種の実証・普及など生産性の向上に取り組みます。

実践事項
地域活性化への貢献

1. 地域実態・組合員ニーズをふまえた「JA事業」と「JAくらしの活動」の展開

人口減少や超高齢化社会の到来、地域経済の停滞等により、地域の活力が失われつつあり、組合員・地域住民のくらしに関する不安は増大しています。特に高齢者世帯の増加により日常的な買い物や通院等地域インフラ機能へのニーズが増しています。

図6 地域の活性化への貢献に向けた「JA事業」と「JAくらしの活動」の全体像



そのような中、JAグループ愛媛は、「地域セーフティネット機能の発揮」を基本に総合サービスの維持を図るとともに「JAくらしの活動」の展開を行うことによって、JA事業と互いの相乗効果により「食と

そのような中、JAグループ愛媛は、「地域セーフティネット機能の発揮」を基本に総合サービスの維持を図るとともに「JAくらしの活動」の展開を行うことによって、JA事業と互いの相乗効果により「食と

(1) 地域の活性化への貢献に向けた「JA事業」と「JAくらしの活動」の展開

農を基軸として地域に根ざした協同組合」であることを発信して行きます。

(2) 「JA事業」を通じた生活インフラ機能の発揮

(3) 「JAくらしの活動」を通じた地域コミュニティの活性化

(4) 「JA事業」と「JAくらしの活動」を展開するための環境整備

2. 「地方版総合戦略」への積極的な参加による地域社会づくりへの貢献

国の進める「地方創生」に基づき、県・市町が進める「地方版総合戦略」は、地域社会・農業のグランドデザインを描くものです。

このため、JAは、豊かできらしやすい地域社会の実現に取り組むにあたり、この戦略の策定・実践に積極的に参加することで、地域社会づくりに貢献します。

実践事項 自己改革の着実な実践

1. 自己改革の実践を支える経営基盤の確立

自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向け、自律的な内部管理態勢を確立するとともに、

総合事業による安定的な経営基盤の確保に取り組みます。

また、今般の農協法改正を踏まえ、理事・経営管理委員の構成要件見直しへの対応や、多様な組合員の運営参画を推進する観点で、業務執行体制の見直し・強化等を図るとともに、自己改革の着実な実践を支える経営基盤の確立に向け、正・准組合員を対象とした総合事業実施を前提に、経営資源の再配分やJA間連携の強化、事業利用の拡大、農協運動の理念を実践するJA役員づくり等へ取り組んでいきます。

2. 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立

JAは、正・准全ての組合員を対象として、支所（支店）協同活動やJA組織活動の活性化により組合員参加の「場」づくりと「場」の活用による組合員の意思反映・運営参画の強化をすすめます。

また、准組合員は「農業や地域経済の発展を共に支えるパートナー」であり、「農業振興の応援団」「地域振興の主人公」です。こうした位置づけをふまえ、農業者の所得増大等に向けた自己改革とあわせて、准組合員の「農業振興の応援団」として

の取り組みを拡充します。

3. 自己改革の着実な実践を図るための仕組みづくり

自己改革に向けた施策と目標を組合員・役員が共有し、着実に実践していく仕組みとして、中期経営計画の策定と定期的なレビューを通じたPDCAサイクルの中で進捗管理を徹底し、着実な成果を残していきます。

実践事項 「食」「農」「協同組合」にかかると かかる県民理解の醸成に 向けた広報活動の実践

JAGグループ愛媛は、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として県民理解を深めるため、「食」「農」「協同組合」にかかると県民理解の醸成に向けた広報活動強化に徹底して取り組みます。

JA役員自らが、地域の中で協同活動への参加・参画を通じた広報活動を展開します。また、地域住民との接点として、既存のJAの拠点・施設を活用します。

各種メディアと合わせて、多様な広報手段を十分に活用した情報発信

の強化に取り組みます。

実践事項 JAグループの結集軸としての 「新たな中央会」の構築

今回の農協法改正では、中央会がJAの自由な経済活動を適切にサポートするという整理のもと、現行の中央会制度は廃止となり、平成31年9月を移行期限として、県中は連合会に、全中は一般社団法人に組織変更することができるとされました。また、JA全国監査機構についても全中から外出しし、監査法人化することが求められました。組織変更後の中央会は、引き続き「会員の意見の代表」「会員相互間の総合調整」「会員の要請を踏まえた経営相談・監査」などの機能を担うとされています。

このような情勢をふまえ、地域・事業の枠を超えて連帯する農業協同組合の結集軸としての中央会をJAGグループ愛媛の総意をもって構築します。

※JA大会決議内容は、JA愛媛中央会ホームページで公開されます。

THE ねとろわーく

「愛媛みかん大使による消費宣伝キャンペーンを実施！」

果実課

J A全農えひめ果実課は、今年も愛媛みかんの本格出荷にあわせ、首都圏と関西地区で「愛媛みかん消費宣伝キャンペーン」を実施しました。



▲岡本会長（左）とみかん大使が中村知事（左から4人目）を表敬訪問



▲東京・大田市場で初荷セレモニーを開催

11月5日には、愛媛みかん消費宣伝キャンペーンのスタートにあたり、2015愛媛みかん大使4人とJ A全農えひめの岡本健治運営委員会会長らが、愛媛県庁に中村時広知事を表敬訪問しました。



▲各種イベントを通じて愛媛みかんをしっかりとPR

「農家の皆さんが真心こめて生産された愛媛みかんが全国の食卓に並ぶ光景を思い浮かべながら精一杯PRします」と元氣よく決意を伝え、みかんのカゴ盛りを贈呈。試食した中村知事からは、「これは甘い。今年も抜群に美味しい。皆さんも自信を持って皆さんの笑顔でしっかり売り込んでほしい」と激励の言葉がありました。

愛媛みかん消費宣伝キャンペーン

今年の愛媛みかん消費宣伝キャンペーンは、11月3日の「みかんの日」を前に、10月31日「レインボーフェスティバル」会場で「オレンジロード

」スタートイベントを開催。その後、11月6日～11月10日まで、首都圏と関西地区で、キャンペーン活動を展開しました。県内産早生みかんが出揃った11月6日には、中村知事と県内主産地J Aとともに東京・大田市場競売場で初荷セレモニーを行い、早生みかんの出荷スタートと愛媛みかんの品質をアピールしました。また、7日にはJ R有楽町駅前広場特設ステージで行われた愛媛県観光・物産PRイベント「愛のくに愛顔のえひめフェスティバル」に参加したほか、マスコミ訪問活動や店頭販促活動、市場訪問などを精力的に行い、愛媛みかんをPRしました。

◇「オレンジロード」について

J A全農えひめは、今年も11月3日「みかんの日」から4月14日の愛を深める記念日「オレンジデー」まで、「オレンジロード」として取り組んでいます。「オレンジロード」は、「愛のシンボル」であるオレンジ季節の旬の柑橘を「オレンジデー」までの記念日ごとに贈り合うことで、愛を育み深めていく「道のり」です。今年も、県内J Aと一体となり、温州みかんやこれから旬を迎える愛媛産柑橘の消費拡大と「オレンジデー」の定着に向けて取り組みます。

統計BOX

全国の耕地面積は449万6,000ha

— 平成27年耕地面積（7月15日現在）調査結果の概要から —

図2 耕地種類別面積割合（愛媛県）

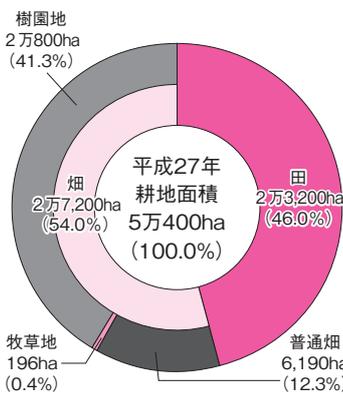
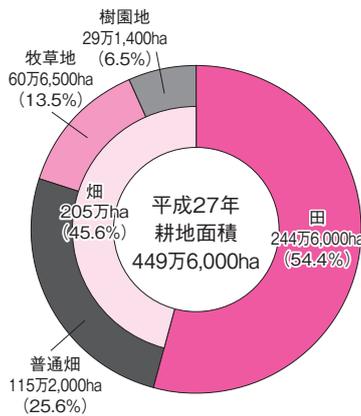


図1 耕地種類別面積割合（全国）



我 が国の耕地面積は、耕地の荒廃、工場用地、道路、宅地等への転用等によるか廃のため減少傾向にあります。今月は、全国及び愛媛県の平成27年耕地面積についてみていきます。

愛媛県は田より畑が多く、耕地の4割は樹園地

平成27年7月15日現在の全国の耕地面積（田畑計）は449万6,000haで、前年に比べて2万2,000ha（0.5%）減少しました。田畑別にみると、田は244万

6,000ha、畑は205万haで、前年に比べてそれぞれ1万2,000ha（0.5%）、1万ha（0.5%）減少しました（図1）。

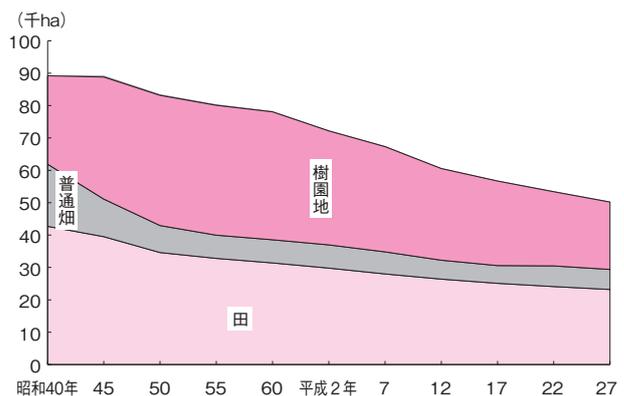
愛媛県における耕地面積（田畑計）は5万400haで、主に耕地の荒廃等から前年に比べて800ha（1.6%）減少しました。田畑別にみると、田は2万3,200ha、畑は2万7,200haで、前年に比べてそれぞれ200ha（0.9%）、600ha（2.2%）減少しました。また、県内の耕地を田畑別にみた面積割合は、田が46.0%、畑が54.0%で、畑の種類別は普通畑が12.3%、樹園地が41.3%、牧草地が0.4%となっております（図2）。

愛媛県は40年間で40%の耕地が減少

昭和50年から本年までの愛媛県の耕地面積の推移をみると、全体で3万3,100ha（39.6%）減少しました。田畑別にみると、田が1万1,400ha（32.9%）、畑が2万1,700ha（44.4%）それぞれ減少しました。また、畑の種類別には、普通畑が2,150ha（25.8%）、樹園地が1万9,400ha（48.3%）、牧草地が165ha（45.7%）それぞれ減少しています（図3）。

農林水産省では「新たな食料・農業・農村基本計画」において、農業

図3 耕地面積の推移（愛媛県）



者等が行う、荒廃農地を再生利用する取組を推進するとともに、再生利用可能な荒廃農地の農地中間管理機構への利用権設定を進めることにより、荒廃農地の発生防止と解消に取り組んでいます。今後も優良農地の確保と有効利用を進めるために、農地転用制度等の適切な運用を図るとともに、荒廃農地の発生抑制・再生利用を着実に推進する事が必要です。そのためには、農林水産省が実施する各種施策もうまく活用して、荒廃農地の問題を解決していきましょう。

※統計数値については、四捨五入のため、合計と内訳の計が一致しないことがあります。

中国四国農政局愛媛支局



愛媛ってあったかい！

私がアナウンサーを漠然と意識したのは高校時代、テレビ番組「なるほど！ザ・ワールド」のリポーターひょうきん由美（益田由美）さん！各地の文化や風土にふれ、失敗しても笑ってもらえる、なんて楽しい仕事だろう！

大学では早速、放送研究会に入るも思い描くような楽しさはなく、雑務ばかりで嫌になり退会。折しも時代はパブル全盛期、悠々自適の女子大生を謳歌していました。

大学4年生。就職シーズンに突入し、希望の放送各局を受験。何もしてこなかった私は当然と言うべきか、受かることなく、一般企業の内定を得て新年を迎えます。制服を作る段階になり、「やっぱり違う」。大学としても内定辞退はご法度ながらもお断りをし、親へ1年間の就職浪人の許しを請い、広島のアナウンススクールで猛勉強。知識を吸収、情報収集、さらに夢への思いも深まり、ラジオ・アシスタント、テレビ・リポーター、裏方スタッフをしないかと、チャンスは広がります。そ

して、愛媛で、あいテレビが開局するという情報も！

あいテレビ入社、23歳。若いって怖いですね。怖いものがないのですから！幸いにも何でもチャレンジをさせてもらい、全国放送にも出させてもらいました。

西条は「西」と書くから愛媛県の西部にある？河原で芋を煮て食す「芋炊き」とは何ぞや？愛媛に縁もゆかりも、知識もなかった私が県内くまなく足を運び、知らないことを強みに、その都度多くの質問をぶつけ、吸収していきました。とはいえ、一発本番の生中継で、芋炊きの大きな里芋が熱すぎてしゃべれない、重信川の出合いの芋炊きでは大ダコを喉に詰め…と、ハプニングは数知れず。特にグルメリポートは果敢に挑戦、仕事で食べ、お給料をもらい、家で食べ、また仕事で食べてと、四六時中食べまくり（笑）。アナウンサー志望者から勉強法や資格取得の質問を受けますが、敢えて言えば好奇心が旺盛なこと、恥の意識は

平繁かなえ

KANAE HIRASHIGE

あいテレビ (ITV) アナウンサー。広島県呉市出身。1969 (昭和44) 年2月7日生まれの水瓶座、血液型はO型。安田女子大学卒業後に広島で1年半フリーアナウンサーを経験。1992年10月、開局にあわせて、あいテレビへ入社。ローカル情報番組「ハナマル調査団」、「ハナマルセブン」などでグルメリポーターを務めるなど情報系番組を中心に11年間活躍。好物はウニ、イクラ、フレンチトースト。苦手なのはセロリとレバー。2003年4月に長女を出産、翌年4月に夕方ニュース「NEWS キャッチあい」キャスターとして職場復帰し、11年間県内各地の今を伝え続ける。2015年7月からは、あいテレビがゴールデンタイムとしては13年ぶりとなる情報バラエティ番組「よるマチ！」にレギュラー出演。

趣味は、フリーマーケットめぐり、ハワイアンフラ。資格は英検2級、きき酒師&焼酎アドバイザー (日本酒サービス研究会認定)、ワインコーディネーター (全日本ソムリエ連盟認定) を取得。

★「よるマチ！」 (毎週月曜・19:00~19:54)

「月曜の夜が“待ち”遠くなる」県民お役立ち情報バラエティ番組。毎回、県内の旬な情報の特集で伝えるほか、グルメコーナーなどもある。松山市一番町のアエル松山2階の小さなスタジオ・i-studio (通称アイスタ) から生中継で夜の街の様子も紹介している。



▲「よるマチ！」出演者の皆様。
 (左から)岡田麻希さん、山本清文さん、
 平繁かなえさん、滝香織さん



必要だけど恥の意識が低いこと、恥ずかしがってはい何もちゃレンジできず、相手の懐に飛び込めない。私も学生時代は特に目立つわけでもなく、ごく普通の生徒でしたが、仕事の中で段々とその術を会得していきました。出産、育児休業を経て、母親目線からもニュースを伝えた「NEWS キャッチあい」のキャスターを今年3月に卒業し、7月に新番組「よるマチ！」へ。

自社制作の本格的情報バラエティ番組は「ハナマル」シリーズ以来、13年ぶりです。その間ずっと「自社制作番組を作りたい！」熱意をしつこく訴え続けて、やっと叶った念願の「よるマチ!」。13年ぶりのスタッフがそのままに高齢化(笑)して勢ぞろい、その意気込みもそうそうたるものです。先日南予の取材先で「大した話題

でなくてもふるさとの名前が、景色が、人が出るだけで、町が元気だという証しなんだとうれしくなる」と言われます。私たちは面白い情報という視点を優先しがちですが、あらためて原点に立ち返らせてくれる言葉をいただきました。10数年前の取材でおいしくて人気の店がまだ頑張っている、新しい店もできている、南に東に、まだまだ行ったことのないところもたくさんあります。行く先々で「子どもさん幾つになったー?」「うちの子と同級生よ」と声をかけて下さる視聴者の方々。つくづく愛媛って、広くて、あったかいです。

とはいえ、「よるマチ!」の内情は厳しく(?)、部長はじめいろいろな人が兼務で制作をしています。私も出演・ディレクター・編集と、1人3役、1日36時間は欲しい(涙)。番組の裏では大変な世界がうごめき、私も笑顔で明るく、ゲッソリ:とすることもなく(笑)。おかげさまで、回を追うごとにビシビシと手ごたえを感じています。

今は個々でテレビを見るご家庭も多いかもしれませんが、ちようど夕餉の時間です。一家団欒、テレビを囲んで今度どこへ行くこうかと話題を提供でき、へーと笑い、家族の会話が增える、いろんな世代の県民の方々のお役にたてる情報番組でありたいと思っています。

●JA全農えひめ&(株)ひめライス

中村知事に「みきゃん」を用いた県産米「にこまる」の新米販売開始とひめライス新米キャンペーンを報告

JA全農えひめの小越慎介県本部長と(株)ひめライスの松田一人社長が、10月23日愛媛県庁に中村時広県知事を訪問し、県のイメージアップキャラクター「みきゃん」を活用した愛媛県産「にこまる」の27年産新米販売開始(10月26日～)とひめライス新米キャンペーンの取り組みについて報告しました。

JA全農えひめは、県産「にこまる」のブランド化をめざして統一精米パッケージやポスター・テレビCMに「みきゃん」を採用。(株)ひめライスは、8月から10月末まで「みきゃん」を前面に打ち出した「新米キャンペーン」で販売促進を行っており、知事報告では、「みきゃん」の登場する「にこまる」と新米キャンペーンのテレビCMの放映、「にこまる」新米のおにぎり試食などを行いました。

中村知事は、「テレビCMはよく見えています」「(にこまるは)食味が良い。美味しい」と話し、「みきゃんは愛媛全体を盛り上げるために生まれたキャラクター。どんどん活用してください。みきゃんマークの付いた地元のお米をぜひ食べ



▲(左から)松田社長、中村知事、小越県本部長、みきゃん

てほしい」と呼びかけました。

27年産「にこまる」の県内栽培面積は1,950ha(推計)。東予地区と中予地区平坦部を中心に栽培しています。(株)ひめライスは平成25年2月から県産「にこまる」定番商品の発売を開始し、今年4月から小袋ニーズに対応して「あらうまい愛媛県産にこまる2kg」の販売を開始。定番商品4アイテムを販売中で、27年度上期は前年同期比309%の258tの実績を上げています。

●紅まどんな選果目あわせ会

ブランド確立に向け基準厳格化！ 価格に見合う商品提供を

愛媛オリジナル品種「紅まどんな」の出荷を前に、JA全農えひめ果実課は、11月11日、伊予市のJAえひめ中央伊予営農支援センターで「紅まどんな選果目あわせ会」を開きました。目合わせ会は、消費者・販売先の期待に応えるため、品質の向上と価格の統一をめざして24年から行っており、4回目。JA販売・選果担当者と愛媛県、市場から36人が出席し、JA全農えひめの担当者が、出荷要領と今年から厳格化した選果基準を具体的に説明し、基準を順守して価格・価格に見合った商品を提供するよう呼びかけました。

「紅まどんな」は、商標権をJA全農が所有し、愛媛県で育成された品種「愛媛果試第28号」の中で、糖度・酸などJA全農えひめの定める品質基準をクリアし、県内JAが出荷するものに限り商標使用を認めています。

12月の贈答用商品として市場・販売先から高く、高級かんきつのイメージが浸透していますが、数量増加に伴い品質のバラつきが課題となっています。JA全農えひめはブランドのイメージと価格を高めるため、27年産から「紅まどんな」の出荷基準を糖度は0.5度引き上げて10.5度以上、酸度は0.1%下げて1.2%未満のもの



▲JA全農えひめの担当者(手前)が選果基準を説明

のとし厳格化。糖度9.5～10.4度以下、酸度1.3%未満は「あいか」(愛媛果試第28号)として5kg箱主体で販売し、それ以下のものは加工原料とすることとしました。

市場関係者は、「昨年は数量が増えたものの評判も良く、数量増の要望や新規顧客もあってスムーズに販売できた。昨年は一部で傷み果の発生がみられたので、消費者に美味しく食べていただけるよう選果選別の徹底を」と呼びかけました。

●平成27年産 冬春野菜出荷協議会

共販量は前年比108%の4,785 tを計画

J A全農えひめ野菜花卉課は、11月4日、平成27年産冬春野菜出荷協議会を開き、いちご・レタス・冬春きゅうりなど主力8品目の販売基本方針を決めました。

栽培面積は、ブロッコリー・ほうれんそう・レタスなど5品目が前年を上回り、全体では前年比103%の234.9haを見込んでいます。共販量は、全体では4,785t（前年比108%）を見込んでいます。

販売基本方針では、企画販売等多元的販売強化として、市場流通を基本にパートナー市場と連携をさらに強化し、量販店・生協等実需者販売、惣菜・外食等の加工・業務筋への販売など販売ルートへの拡充により、長期安定単価の確保をめざします。加工業務用キャベツを中心に新規販路拡大を図ります。厳寒期の不安定な出荷が予想される中、愛媛チームとしてロットを確保し、販売先を見据えた分荷・販売を展開。企画販売は19企画・1億3,347万円を計画しています。

消費宣伝活動では、「えひめの食」企画と連携してメディアを活用したPRのほか、えひめ

平成27年産 冬春野菜出荷計画 単位：ha、トン、%

品 目	平成27年産出荷計画		前年比 (%)	
	面 積	共販量	面 積	共販量
い ち ご	30.4	1,011.6	100	115
キ ャ ベ ツ	18.8	590.0	90	102
レ タ ス	45.1	877.6	104	111
ブロッコリー	73.7	468.0	113	112
冬春きゅうり	25.3	1,204.8	94	103
冬春とまと	1.3	203.2	94	101
白 ね ぎ	15.1	251.6	101	103
ほうれんそう	25.2	178.2	105	124
合 計	234.9	4,785.0	103	108

フェア等を通じた店頭試食宣伝やレシピ提案などアピール食のある販売促進活動を行い、えひめ野菜のファン拡大に努めます。なお、市場からは、各品目とも、栽培面積・出荷量の拡大と期間を通じた安定出荷、適期収穫、的確な産地情報の発信、J A・個人間の品質格差是正などの要望が出されました。

●平成27年度早生みかん果実コンクール

大下克夫さんが愛媛県知事賞受賞！

J A全農えひめと愛媛県果樹同志会は、10月26日、平成27年度早生みかん果実コンクール審査会を開催し、県内各地から出品された94点の中から、愛媛県知事賞の大下克夫さん（J Aにしゅうわ・出品＝「宮川早生」）ほか入賞者8人が決まりました。出品果実は、翌日開催された「みかん研究所参観デー」（宇和島市）で展示されました。

表彰は、来年3月の愛媛県果樹同志会大会で行われます。

その他の受賞者は次の皆さん（カッコ内はJ A名・敬称略）。

▽全農愛媛県本部長賞＝松田幾弘（にしゅうわ）▽果樹同志会長賞＝渡部正義（おちいまばり）、▽優良賞＝薬師寺明（えひめ南）、浜田俊（同）、高月芳人（にしゅうわ）、井上金蔵（同）、田口圭一（同）



●平成27年産 冬春花き出荷協議会

信頼される産地、愛媛ブランドの確立・強化めざす

J A全農えひめ野菜花卉課は、11月11日、冬春花き出荷協議会を開き、夏秋期品目の販売結果と冬春期品目の出荷計画・販売方針を協議しました。

夏秋期は、シンテツポウユリが数量は前年比81%の50万1,947本、単価が前年比110%、デルフィニウムが数量前年比119%の185,551本、単価103%。夏秋期品目全体では数量前年比93%、単価前年比109%、金額ベースは前年比101%でした。

冬春期（11～5月）は、オリエンタルユリが

面積304a（前年比94%）・数量38万8,100本（同99%）、デルフィニウムは面積168a（同104%）・数量30万3,400本（同104%）、ユーカリは面積1,503a（同91%）・数量62万9,400本（同94%）を計画しています。

販売基本方針では、産地間の連携強化による拠点市場への長期継続出荷体制の強化、品質・選別基準の徹底と個人間格差是正、イベント等を通じた愛媛オリジナル品種等のPR強化・ブランド力向上などに取り組みます。

●(株)えひめ飲料

えひめ逸品柑橘シリーズ第1弾

「POMえひめ逸品柑橘愛媛きよみサイダー」発売

(株)えひめ飲料は、『POMえひめ逸品柑橘シリーズ』第1弾商品として、「POMえひめ逸品柑橘 愛媛きよみサイダー」(410mlペットボトル)を全国一斉発売しました。

同シリーズは、「かんきつ類の生産量と栽培品目数で日本一を誇る愛媛県の美味しい柑橘果汁で癒されてほしい」というコンセプトで商品化。今後、愛媛県で比較的栽培が盛んなものの、全国的にはあまり知られていない柑橘果汁を使った炭酸飲料を順次発売していきます。

「POMえひめ逸品柑橘愛媛きよみサイダー」は、愛媛県産清見果汁が10%入った炭酸飲料。甘みと酸味のバランスがよく、風味豊かで冬でも飲みやすい味わいです。

ラベルには愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」が愛媛の逸品かんきつを手渡しでオススメしているデザインに加え、「愛媛



産には、愛がある。」のロゴを表示し、「愛媛産」を前面に打ち出しました。

同社は、「30～40代の女性をはじめ炭酸飲料を好む方に飲んでほしい」と話しています。希望小売価格は140円(税別)。商品のご注文・お問い合わせは「POM NET SHOPまじめな宅配便」(電話0120-591-516)まで。

●ひめライス新米キャンペーン抽選会

前年比116%の応募!

当選者1,000人決定

(株)ひめライスは、11月13日、松前町の本社で、「ひめライス新米キャンペーン」抽選会を行い、松田一人社長らが、1万9,684通の応募の中から、当選者1,000人を選びました。

キャンペーンでは、ポスターやテレビCMで愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」を前面に打ち出し、愛媛県産の新米発売と地産地消をアピールしたほか、1商品購入で2口応募できるよう工夫。35店舗に新米コーナーを設置したほか、のべ15店で店頭試食宣伝活動を実施しました。

応募数は前年比116%。期間中の販売実績(数量ベース)は新米値上がりの影響もあり前半は落ち込んだものの、10月に盛り返してほぼ前年並(同99%)を確保しました。

応募ハガキには、「TPPで自給率低下が心配ですが、今後も安心美味しい地元のひめライスを応援します」「母から教えてもらったひめライスの味を子どもたちへ伝えていきます」「応募



▲松田社長(中央)らが当選者選ぶ

用紙に保存方法が記載され参考になった」などの声が寄せられており、松田社長は、「ハガキで寄せられた声や要望を顧客満足度の向上に活かすことが重要だ。大きく伸びた応募数をバネに利用定着と愛媛の米の販売拡大につなげたい」と話しています。

なんでもBOX

●第24回愛媛農林水産賞

J A松山市久万高原トマト部会が優秀賞受賞

愛媛県の農林水産業の振興や発展に功績のあった個人・団体を表彰する『第24回愛媛農林水産賞』（愛媛新聞社主催）の表彰式が、10月27日松山市の愛媛新聞社で行われ、優秀賞3団体と奨励賞3団体が表彰されました。

優秀賞を受賞したJ A松山市久万高原トマト部会（渡部進部会長）は、部会設立以来45年間、全国に先駆けて新品種「桃太郎」の導入、ハウス栽培への移行などにより高品質安定生産を実現する取り組みや多様な販売戦略を実践し、西日本屈指の夏秋トマト産地の地位を築いたこと、生産者の高齢化や消費者の安全・安心ニーズへの対応・取り組みなど、先進的・積極的な取り組みが評価されました。

前回までの新人賞に代わり将来性が期待される個人・団体を表彰する「奨励賞」が新設され、農業関係では西条地区青年農業者連絡協議会果樹実践班（佐伯忠彦班長・西条市）と農事組合法人たちばな（砂田虎善代表・今治市）が表彰されました。



▲表彰を受けるJ A松山市久万高原トマト部会の渡部進部会長

●J Aグリーンえひめ収穫祭

親子芋掘り体験などで交流深める

東温市の農産物直売所「J Aグリーンえひめ」は、10月23日～10月25日の3日間、「実りの秋収穫祭」を開催しました。

期間中は、先着30組の親子を対象に「親子芋掘り無料体験会」、とれたて芋の「ふかし芋販売」、出荷会員による「芋炊きお接待」、卵のつかみどり、2,000円以上お買い上げのお客様を対象にしたお楽しみ抽選会などを実施し、生産者と消費者の交流を深めました。親子芋掘り体験では袋いっぱいサツマイモと里芋を収穫。子どもたちは「土が硬くて大変だったけど、楽

しかった」「焼き芋にして食べる」と笑顔を見せていました。

なお、10月27日には、毎年恒例となっている地元南吉井保育所の園児53人が芋掘り体験を楽しみ、「皆でおやつで食べる」と嬉しそうに芋を持ち帰っていました。



●第7回「子ども野菜の絵コンクール表彰式」

年中部門金賞の玉井紗衣ちゃん等表彰

伊予市下吾川のJ Aえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケットいよっこらは、10月24日と25日の2日間「秋の大収穫祭」を開き、伊予牛「絹の味」黒毛和牛骨付きモモ肉の丸焼きや餅つき、野菜・みかん詰め放題など多彩な催しを実施して賑わいました。

25日には、第7回「子ども野菜の絵コンクール表彰式」を開き、年長部門でいよっこら運営協力会会長賞を受賞した小林慧紋くん（青葉幼稚園）など入賞者26人を表彰。出品作品は、収穫祭の期間中会場内で展示して、来店客を楽しませました。

年中部門でJ Aえひめアイパックス(株)社長賞を受賞した玉井紗衣ちゃんは、「大好きなトウモロコシを食べる自分の絵を描きました。お絵描きが好きなので入賞してうれしい」と笑顔を見せていました。

このほかの金賞入賞者は次の皆さん（敬称略、カッコ内は幼稚園名）。

◆年少部門：【いよっこら店長賞】高石聖太（青葉幼稚園）【金賞】渡部優多乃（伊予幼稚園）、中野琉叶（エンゼル幼稚園）

◆年中部門：【J Aえひめアイパックス(株)社長賞】玉井紗衣（青葉幼稚園）【金賞】伊藤颯久（郡中幼稚園）、黒田堇（とりのき保育所）

◆年長部門：【いよっこら運営協力会会長賞】小林慧紋（青葉幼稚園）【金賞】壬生綾斗（からたち幼稚園）、中村芽依（愛光幼稚園）



▲年中の部でJ Aえひめアイパックス社長賞を受賞した玉井紗衣ちゃん



- THE・ねっとわーく「JAGグループ農畜産物消費拡大運動」を読んで。私も毎年JAGグループ農畜産物消費拡大運動に協力しています。以前ニュースで紹介されていた、らくれんと愛媛大学の共同研究の成果で誕生したドリンクヨーグルトが今回バラエティーセットに入っているということで、さっそく飲んでみたいと思いつきました。パッケージもみきゃんがいて可愛く、柑橘の加工の際に出る皮なども無駄なく使い、一番気になったのは花粉に悩む人におすすりめなことです。さっそく主人といただきました。飲みやすく美味しい。こういった共同開発が大好きです。食品の捨てる部分が出ないよう、いろいろな商品の開発が楽しみです。
(大洲市・矢野 博子さん)
- 統計BOXを読んで。私たち果樹園で耕地利用があつたらと思っています。私たちの地域でも荒廃園が目立って増えてきているように見えます。高齢化で農業をやめる人が増えているせいですね。新しい果樹の品種などがあつたら教えてください。
(八幡浜市・米花 佐智子さん)
- ふるさとエッセーを読んで、「農業って素晴らしい！」と思ってくれる人が増えて、次世代農業者がつぎつぎと誕生してくれるよう、愛の葉(えのは)ガールズ、農業生産法人hプロジェクトの活躍に期待します。頑張ってください。
(内子町・奥田 愛梨さん)
- エッセーを読んで。最近ではTOKIOが農業アイドルと話題を呼んでいます。憧れのアイドルがきっかけで農業に魅力を感じる若者がきつと増えるはず。農業の素晴らしさを伝えるために、使命感を持って頑張る「愛の葉ガールズ」素敵です。応援します！
(今治市・高山 亜希さん)
- 鮮度にこだわった「朝採りたまご」の販売開始の記事を読んで。みなみくんだけでなく、早く今治の方でも買えるようになればいいと思います。
(今治市・村上 睦さん)
- 朝採りたまごも30個まとめて買おうと食べ終わる頃には鮮度が落ちるので、もっと少量で販売してほしい。
(伊予市・亀田 均さん)
- 「朝採りたまご」をささいや広場で試食しました。黄身が濃厚で美味しかったです。卵かけごはん食べてみたいです。
(宇和島市・岡部 慶吾さん)
- (株)えひめ飲料の「お楽しみ宝箱プレゼントキャンペーン」買って、飲んで、集めたらいいですね。先日大阪の妹宅に泊まることになり、朝食のお供はボンジューズでした。毎年我が家から「ミカンジューズ」を贈るのですが、もちろんそれでは足らず、いつもボンジューズを買って飲んでいました。すごくうれしく、楽しい朝食をいただきました。また送ってあげようと思いました。
(八幡浜市・岡 葉子さん)
- 農業体験ツアー。こういう事業はたくさんしてほしいですね。子どもの頃から農業に興味を持ち、一人でも多く体験して農業をやってみたいと思うことが大事です。野菜を育てるということは毎日の生長が楽しみで元気をもらっています。
(大洲市・矢野 直美さん)
- 自分も2人の子供がいますので、体験ツアーなどが各地であるのを知り、参加してみたいと思います。子どもたちも農業や食について勉強してもらいたいと感じました。
(松山市・中野 智さん)
- 編集部より：体験ツアーの募集は、えひめ愛フード推進機構やJAG全農えひめのホームページで都度お知らせしています。ご確認ください。また、知り合いの方などにもぜひお知らせください。
(今治市・四田 悦子さん)
- 親子で体験ツアーはたくさんありますね。私も子育ての頃、このような企画があれば常に参加して楽しんだらうと思います。
(今治市・村上 睦さん)

今月のクイズ

「第〇〇回」

愛媛県JAG大会が開催されました。今回は何回目の開催だったでしょうか？

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成28年1月18日(当日消印有効)

発表

「あぐり〜ど」2月号で発表します。

当選者発表

10月号の答えは「朝採りたまご」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 仲元 妙子さん(伊方町) 石村てるみさん(四国中央市)
- 阿部 節男さん(今治市) 寺尾 智美さん(四国中央市)
- 井上 喜美さん(八幡浜市) 伊藤ちえみさん(西条市)
- 楠 裕子さん(松山市) 田村恵美子さん(今治市)
- 武田 五月さん(西条市) 相原 靖志さん(松山市)

編集後記

★今年は大筋合意、農協法改正など農業に大きな影響があった年でした。愛媛県が3年間のJAGグループの取り組み方向が決まりました。特集では抜粋したので、ご確認ください。(正直)

【訂正とおわび】
11月号11ページの愛媛県園芸大会の愛媛県農産園芸功労知事表彰受賞者で、「山高陽子さん」とあるのは、「山高陽子さん」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



今月の素材
春 菊



独特の香りが自律神経にも効く～
栄養素もバツグン!の、和製ハーブ

▶ (左) 春菊と豚肉のオイスター炒め、(中) プリと厚揚げと春菊あんかけ、(右) 春菊のアーモンド和え



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

春菊と豚肉のオイスター炒め

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約170kcal

春菊	1束
豚肉 (スライス)	160g
カボチャ	1/8個 (約100g)
パプリカ (赤)	1/2個
白ネギ (みじん切り)	1/2本
ニンニク (みじん切り)	1カケ
① ショウガ (みじん切り)	1カケ
輪切り唐辛子	3～5個
サラダ油	大さじ1
中華ダシ	100cc
② 砂糖	小さじ1
醤油	大さじ1
オイスターソース	大さじ1
ゴマ油	小さじ1

- 〈作り方〉
- ① 春菊と豚肉は5cm幅に切る。
 - ② カボチャは1cmの拍子切りにし、レンジにかける。パプリカは薄切りにする。
 - ③ フライパンに油を熱し、①を入れて香りをだし、豚肉とパプリカを炒める。
 - ④ カボチャを加えて、②を入れ、最後に春菊、白ネギ、ゴマ油を加え、サッと炒め合わせて味を調える。

春菊のアーモンド和え

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約138kcal

春菊	1束
エリンギ	1パック
サツマイモ	1/2本 (約60g)
ツナ	1缶
アーモンド	30g
ダシ	大さじ3
① 砂糖	大さじ1
醤油	小さじ1
味噌	小さじ1

- 〈作り方〉
- ① 春菊は茹でて冷水に取り、3cmに切る。エリンギは薄切りにし、茹でてザルに入れ、冷ます。
 - ② サツマイモは1cm角の拍子切りにし、レンジにかける。
 - ③ アーモンドは細かく刻む。ツナ缶は余分な油を切る。
 - ④ ボウルに①を入れてよく混ぜ、①、②、③を加え、さっくり合わせる。

プリと厚揚げと春菊あんかけ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約250kcal

プリ	2切
小麦粉	適量
厚揚げ	2丁
サラダ油	大さじ1
春菊	1束
ニンジン	1/4本 (約30g)
食用菊 (黄)	1輪
酢	少々
① ダシ	360cc
塩	小さじ1/2
② ミリン	大さじ2
薄口醤油	小さじ1
ショウガ汁	小さじ1
水溶き片栗粉	大さじ2～

- 〈作り方〉
- ① 春菊は茹でて冷水に取り、水気を絞り、1cm幅に切る。
 - ② ニンジンは2cmの千切りにし、茹でる。食用菊は花びらを取り、酢を入れた湯で茹で、流水でさらす。
 - ③ 鍋に①を入れて加熱し、ニンジンを加え、水溶き片栗粉でとろみをつける。
 - ④ プリは一口大に切り、小麦粉をまぶす。厚揚げは一口大に切る。
 - ⑤ フライパンに油を熱し、プリの両面を焼き、厚揚げを加えて焼く。
 - ⑥ ③を温め、水気をよく切った春菊と食用菊をまぜあわせて、ショウガ汁を加えて味を調える。
 - ⑦ 器に⑤を盛り、⑥の餡をかける。



えひめ逸品柑橘

**愛媛きよみ
サイダー** 期間限定



柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「清見」とは、温州みかんとオレンジを交配した柑橘で、産地・愛媛では贅沢な柑橘として親しまれています。甘みと酸味のバランスがよく、風味豊かな味わいをお楽しみください。

愛媛の清見
おいしいけんも!





株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com

CM好評オンエア中

ザッ

ジャッ

ポン!

合計
600名様
に当たる!

サッ ジャッ ポン! で
あらうまい!
キャンペーン

お米を「サッ」 水を「ジャッ」 スイッチ「ポン!」

キャンペーン応募期間 平成27年12月21日(月) ▶ 平成28年2月29日(月)

<p>Aコース 2kg分以上 1口で応募</p> <p>40 名様</p> <p>伊予牛「絹の味」 焼き肉セット</p>  <p>黒毛和牛ロース焼き肉用400g/焼肉のたれ/キャベツ 玉ねぎ/かぼちゃ/なす/ピーマン/しいたけ</p>	<p>Bコース 2kg分以上 1口で応募</p> <p>40 名様</p> <p>ふれ愛・媛ポーク しゃぶしゃぶセット</p>  <p>豚ロース500g/豚バラ500g/ポン酢しょうゆ 白菜/白ネギ/しいたけ/春菊</p>	<p>Cコース 2kg分以上 1口で応募</p> <p>50 名様</p> <p>宇和島 鯛めし 鯛めしセット</p>  <p>鯛スライス/特製出汁/海藻/炒りゴマ わさび/刻み海苔</p>
--	---	--

※写真にはイメージや調理例が一部含まれています。※賞品は写真と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催  株式会社 ひめライス

〈お問い合わせ先〉(2016年3月31日まで)
TEL.089-960-3331 受付時間/10:00~17:00
※土・日・祝日・年末年始(2015年12月29日~2016年1月5日)を除く

キャンペーン内容はホームページからもご覧いただけます。 <http://www.himerice.jp/> ひめライス

Wチャンス
さらにはずれた方の中から抽選で
あらうまい!
愛媛県産にこまる(2kg)
プレゼント!

470名様 